

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 57

Teddy Edwards【テディ・エドワーズ】

～ウエスト・コーストで活躍したいぶし銀のテナーマン～

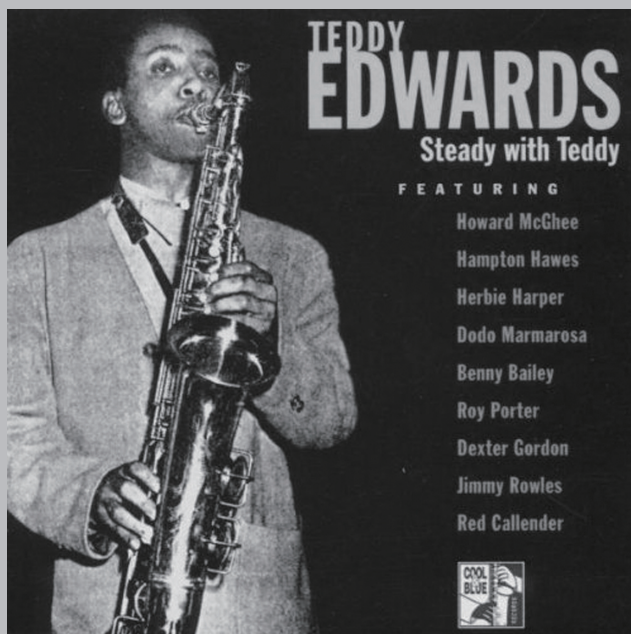


Photo : Teddy Edwards "Steady With Teddy" (Cool & Blue)

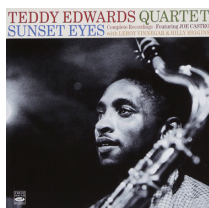
Profile

1924年4月26日、米国ミシシッピ州ジャクソン生まれ。本名はTheodore Marcus Edwards。祖父は地元で有名なベークシスト、父親もトロンボーンやヴァイオリンを演奏する音楽一家の中で育つ。幼少期にアルト・サックス、その後クラリネットを学ぶ。叔父の勧めでミシガン州デトロイトに移るが、家族が病気になるジャクソンに戻る。その後、ルイジアナ州アレキサンドリア、フロリダ州タンパと転々とし、アーニー・フィールズのバンドに参加。ニューヨーク進出も計画するが、結局ロサンゼルスに腰を据え、44年以降ロサンゼルスを拠点に活動が続ける。また、この頃からテナー・サックスを吹くようになる。47年にデクスター・ゴードンとの共同名義で初リーダー・アルバムをリリース。チャーリー・パーカー、ワイノニー・ハリス、ヴィンス・ガラルディ、ジョー・カストロをはじめ、数多くのアーティストと共演を果たし、クリフォード・ブラウン〜マックス・ローチ・クインテット、ハワード・マギーのグループのメンバーとしても活躍。自己のグループでも精力的に活動し、数多くのアルバムをレコーディング。「サンセット・アイズ」等の名曲も残す。76年にミルト・ジャクソン〜レイ・ブラウン・クインテットのメンバーとして来日を果たす。80年代から90年代にはトム・ウェイツとも共演。本誌由来のベースマン、リロイ・ヴィネガーとは盟友で、共にウエスト・コーストで活躍し、数多くのアルバムやライブで共演した。晩年は詩やスケッチを描き、料理本のスケッチも手掛けていたが、前立腺がんを患う等、闘病生活を送っていた。古くからの友人であるハーブ・アルパートも献身的にサポートしていたが、2003年4月20日、米国カリフォルニア州ロサンゼルスで死去。享年78歳。

TE's Great Album

ここで紹介した3作品以外にも数多くのリーダー・アルバムや共同リーダー・アルバムを残しているティ。サイドマンとして残したティの渋いプレイも聴いてみたい。

ティ・エドワーズの黄金時代の名演を収めた2枚組アルバム



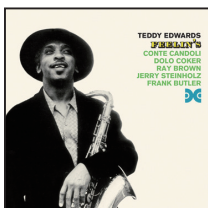
サンセット・アイズ ティ・エドワーズ

(Fresh Sound : JZ110104-03)

ティ・エドワーズ (ts)、ジョー・カストロ (p)、リロイ・ヴィネガー (b)、ビリー・ヒギンズ (ds)、グロリア・スマイス (vo)

[Disc-1] 1. ラヴ・フォー・セール 2. ウォーク・オン (他、全13曲) [Disc-2] 1. アップ・イン・ティーズ・ニュー・フラット (他、全13曲)

ウェスト・コーストの名手達とのセッションを収めた70年代の快作



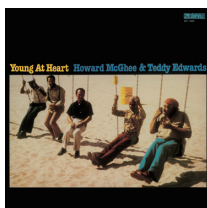
フィーリンズ ティ・エドワーズ

(Xanadu : EM-906077 [Import CD])

ティ・エドワーズ (ts)、コンテ・カンドリ (tp)、ドロ・コーカー (p)、レイ・ブラウン (b)、フランク・バトラー (ds)、他

1. ペア・トラックス 2. エイプリル・ラヴ 3. リッタ・ディッタ・ブルース 4. イレヴン・トゥエンティ・スリー (他、全6曲)

ハワード・マギーとの双頭バンドによる白熱のハードバップ作品



ヤング・アット・ハート ハワード・マギー&ティ・エドワーズ

(ウルトラ・ヴァイヴ : CDSOL-6940)

ティ・エドワーズ (ts)、ハワード・マギー (tp)、ラリー・ヒラリー (p)、リロイ・ヴィネガー (b)、ビリー・ヒギンズ (ds)

1. リラクシング・アット・カマリロ 2. リフレクションズ 3. ブルース・イン・ザ・クローゼット 4. オン・ア・ミスティ・ナイト (他、全7曲)

ティが残した名曲「サンセット・アイズ」をタイトルに冠した2枚組アルバム。録音は1958~1960年。当時シングル盤でリリースされたナンバーや伝説の美人シンガー、グロリア・スマイスも2曲でヴォーカルを披露している。注目はティの盟友で本誌由来のベースマン、リロイ・ヴィネガーのベースとリロイの1stリーダー・アルバム『リロイ・ウォークス!』のオープニングを飾ったリロイのオリジナル「ウォーク・オン」!

録音は1974年。心が知れたウェスト・コーストを代表するミュージシャン達とのセッションを楽しむかの様な雰囲気。漂うティの70年代の快作。オスカー・ピーターソン・トリオを脱退後、ウェスト・コーストで活動していたレイ・ブラウンがベースで参加している点も嬉しい限り。特にボサノヴァの「エイプリル・ラヴ」に「ジョージア・オン・マイ・マインド」がいい。ティが奏するブルース・ナンバーも秀逸。ジャケッとも渋い。

ティがハワード・マギーとの双頭バンドでリリースしたハードバップ作品。ティとハワードの相性も抜群で選曲もいい。録音は1979年。メンバーがブランコに乗ってくつろいでいるジャケッもどこか70年代っぽい。手前に写っているのは本誌由来のベースマン、リロイ・ヴィネガー。そのリロイの低く重く太く力強いウォーキングが印象深い「ブルース・イン・ザ・クローゼット」「イン・ウォークド・パド」等、白熱の内容。

ティの来日 & 3つの願い

ティは生前1度来日を果たしている。1976年にミルト・ジャクソン・レイ・ブラウン・クイントットの一員として、シダー・ウォルトン、ビリー・ヒギンズと共に来日。その時の1976年3月11日大阪公演、厚生年金会館でのライブの様子はMILT JACKSON & RAY BROWN TRIO feat TEDDY EDWARDS『Live in Osaka 1976』(COJ-019)で聴くことができる。尚、本誌で【「現代版」ジャズ・ミュージシャン3つの願い】を特集しているが、ニカ夫人著のオリジナル版でティは「1 平和を望む。2 愛。3 そして健康。」という3つの願いを寄せている。

ティとトム・ウェイツ

ティは「酔いどれ詩人」トム・ウェイツとアルバムとライブでも共演している。1991年にティがリリースした『ミシシッピ・ラッド』では、トム・ウェイツが「リトル・マン」「アイム・ノット・ユア・フール・エニモア」の2曲で歌声を披露している(因みに、このアルバムには本誌由来のベースマン、リロイ・ヴィネガーも参加)。また遡ること1981年、トム・ウェイツが「モントルー・ジャズ・フェスティバル」に出演した際には、ティとベースのグレッグ・コーエンを従えてステージに上がっており、この時の様子はYouTubeでもチェックすることができる。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.30 ~ Love Is A Many Splendored Thing【慕情】~

この曲は中国人の父とイギリス人の母を持つ作家、医師ハン・スーインの自伝小説をもとに製作され、1955年に公開された米国映画『慕情』の主題曲。作曲はサミー・フェイン、作詞はポール・フランシス・ウェブスターが手掛け、アカデミー賞最優秀楽曲賞を受賞。フォー・エイセスが歌いリリオン・セラーを記録。後にフランク・シナトラ等、数多くのアーティスト達がカヴァーし、名スタンダードとして愛され続けている。「恋ははかなく」という邦題も使用。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

クリフォード・ブラウン&マックス・ローチ『アット・ベイズン・ストリート』
ナット・キング・コール『ライブ・アット・ニュー・ラテン・クォーター』
菅野邦彦トリオ『慕情』
美空ひばり『ジャズ・スタンダード』
ジョー・ロヴァーノ『テナー・レガシー』